

館報

おおくま

おもな内容

- 2画…県総合体育大会
- 3面…家庭生活調査、清流
- 4面…行事お知らせ
- 5面…暁少年団の交流
- 6面…文芸
- 7面・8面…みんなのひろば

発行編集 大熊町公民館  
印刷所 新栄社写真美術印刷



親子読書

やあ ほんやさんだ  
お母さんがきめる  
わたしが選ぶ  
楽しい絵本を  
お母さんと 子どもの  
会話は はずむ  
そこには  
子どもの 夢があり  
母親の 願いがある  
そして  
親子のふれあい  
はぐくまれている

公民館では、親と子の  
読書活動に力を注いでお  
り、町内九地区の親子読  
書会を毎月巡回し、楽し  
い絵本を配本している。  
子ども達からは、公民館  
の本やさんと親しまれ、  
親と子の読書活動は盛ん  
になりつつある。

(写真は七月二十四日

熊地区親子読書会で撮影)



# 県総合体育大会

## 相双地区大会で優勝

### 大小・熊小チームが代表に

第三十三回県総合体育大会の参加をかけた、バスケットボール相双地区予選大会は、去る七月二十日相馬高校体育館において開催された。

この大会には、相双地方のスポーツ少年団(小学生)十二チームが参加、小学生の部には鹿島、川内、葛尾、大熊の四チームが出場し熱戦を展開、おさめられた裏には授業を終って

から、汗みどろになって練習にはげんだ選手たちの努力と、ご指導下さった先生方の熱意があり、さらには後援会の力強いご支援が結果となって表われたものです。皆様と共に敬意と感謝を申し上げたいと思います。

### 子どもの声を聞こう

#### 社会を明るくする運動実施中

どこかで見た、どこかで読んだような気がする……。思い出して下さい。これは七月一日より展開している第三十回社会を明るくす

**成人式は八月十五日です**

八月十五日は、大熊町の成人式です。各部落の区長さんを通して、成人式への参加者を調査しましたが、報告もれの方は当日ご出席下さい。

昭和三十五年四月二日から昭和三十六年四月一日までに生まれた方。

△成人式開始時刻▽  
午前八時五十分より大熊町公民館講堂において行います。早めに受付をすませて下さい。

る運動として掲げられたポスターです。PTAや婦人会の方々はすでに目に触れた事と思います。戦後、犯罪者予防更生法という法律が出来、罪を犯し少年院や刑務所より出てきた少年少女を保護、更生し、社会復帰させる仕事です。環境づくりにより犯罪を予防する仕事、その法律の主な内容なのです。大熊町にもボランティアでお手伝いしている有志の方がおります。保護司、更生保護、婦人会等の名で数人が活動しています。広く町内の方々にも参加し協力して頂くため青少年問題協議会や防犯協会、交防協、学校等のご理解もいただいております。豊かな人間をつくり出すために学校教育を通じた知識の習得と更に子どもにも適応した社会参加が叫ばれ、思いやりの心や、自主的社会的活動の芽を育て、明るい社会づくりが期待されております。今年の実施期間に当って大熊中学校(小林校長)にお願いし、二、三年生より標語

大熊と川内の一戦  
大小33 - 7葛尾  
大小29 - 12川内



優勝し賞状を手にした  
大小ミニバスケットチーム

- 気をつけよう
- 二A 水間 道明
  - 二B 志賀 文恵
  - 二C 高橋 清子
  - 非行の道
  - 一步入れば もう遅い
  - 三B 木村 紀夫
  - 引き込まれるな 悪の手に
  - 三A 田中 英佐子
  - ゆるめるな
  - 心の窓に 鍵かけて
  - 三C 大井川 さゆり
- (更生保護婦人会・保護司会)

# みんなで考えよう —家庭生活調査から—

家庭は子どもに安心度、安定感を与え人格を形成する場である。今回町内の主婦を対象に「家庭生活について」調査しました。概要を調査項目毎に多い順に挙げると  
問(一)日常生活の中で大切にしていること。

- ①家族・健康②友人③仕事④趣味・教養

問(二)家族間でのふれあいの場(機会)

- ①家族団らん②日帰りレクリエーション③みんなで外食をする④スポーツ⑤美術鑑賞や観劇

問(三)親子の関係について

①子どもも大事だが親自身の生活が大切だ②子どもの犠牲になるのが当然だ③子どもを見守るとなっている。

問(四)父親の望ましい姿は

- ①育児、羨、教育を積極的に行う父親②育児、羨、教育にあまり口をださない。

問(五)母親として望ましい姿

- ①家事、家庭生活を充実する②おけいこごと・趣味、教養、レジャーに楽しむ③子どもの教育に力を注ぐ④研究学習する⑤商業、農業など家業にそしむ・地域活動をする

問(六)家庭生活を充実するため努力している点

- ①子どもの教育②収入所得をふやす③家庭内での和・親ほく・住居の充実④研究学習する⑤老後の生活のための貯え・趣味・教養・スポーツ。

問(七)将来の生活目標について

- ①食べるのに困らない生活②家族旅行が気軽にできる生活③自分で楽しむ生活(舞踊・俳句・音楽等)

今の生活環境に①満足している②一概にいえない、不満である。

- 理由としては④文化施設(図書館・文化会館)⑤安全対策(治安防犯)⑥スポーツ施設(遊び場・広場・公園)⑦買物・交通などの生活利便となっている。

## 諏訪太鼓

### 衣裳をつくり継承

野上郷土に伝わる「諏訪太鼓」は同神楽とともに歴史がある。テンプは単調なのだがそのリズムミカルな響きは正に格調の高さを知るのに充分です。

古代の文化をそのまま伝承させようと正調諏訪太鼓を守る会が発足してから三年、町当局をはじめとし町民の各位から格別のご協力ご鞭撻でこのほど見事復元に成功しました。深く感謝しています。

また、本年三月文化庁はこの諏訪太鼓を指名し、念を入れて録音を採取、直ちにラジオ放送となり各地からは多く激励をうけるなど

## 清流

館報が発行されるようになってから、かれこれ二十五年になつていと思う。そして今でも編集委員の一人なのだが、こと字に関しては今だに泣かされっぱなしである。

戦前の教育を受けたため、昭和二十四年に制限された当用漢字になじむのは今以て至難の業であり字引も大分くたびれてしまった。

特に書道を趣味としていると、古い中国の碑文に接する機会が

多いため混乱は更に拍車をかける。でも館報は毎日の発行でないためいくらか救われてはいる。

自らの苦痛の反面、戦後の若い人達にも同情はしている。それは学校で習わなかった数多くの字が

## 文字の混乱

館報編集委員

井戸川 佳正

雑多な書籍の中に時々飛び出して来て苦しんでいることを知っているからである。

外国人が白地に赤丸の日本の国旗を見て「日本人は単純な国民だ」と云ったそうだが、こと字に関してはどうであろう。

戦前には略字なるものがあつたが現在はない。現在略字と目されるものは当用漢字という市民権をもたない庶民の書き文字なのだ。

しかし庶民の間に定着しているという事は、生活の知恵なのだろう。

そこで考えさせられることは、自由にまかり通る生活の知恵の書き文字は教育の場では用いられないものであり、公的な性格を持つ文書図画には認められないものと承知すべきであろう。

それは字に対する教育の混乱を

招きかねないことと、当用漢字なるものを制定し押しつけたそのものが公的機関であるからである。

中国は文化大革命によって、非常に簡略化された文字を制定し使用し始めているが、昔日の中国の文字は殆ど見られないと云つてよい程の変わりようである。

おそらく日本には現代における中国の文字は取入れられないと思うが、間違つて取入れられたりすると制限漢字以上の混乱を来しかねない。

それは日本人の生活の中における文字の密着度の高さを意味する。

## みんなでみましよう

### 親の目 子の目

親と子の身近な問題を考える家庭教育番組です。毎週金曜日、福島テレビから放映(午前10時~10時30分)

- 放送内容 <8月>
- 8日 マンガ世界への探検
  - 15日 マンガが語りかけるものー親はいらないぼくらの世界ー遊びと現代っ子ー
  - 22日 できたぞ紙芝居
  - 29日 地域に生きる子どもたちー潮風の中のハーモニーー

- <9月>
- 5日 レギュラーだけが野球じゃないー牛きがいと子どもー
  - 12日 都会という名の親
  - 19日 少年期からの脱皮ー祐美、走ろう!
  - 26日 一本当の愛情とはー牛のオッパイ大きいなー子どもと自然のかかわりー

## テレビ放映

益々志気を高めているところで。幸い今年の八月中には縁日を機し地元青年会員による正調諏訪太鼓の継承祭典を企画、併せて浄財お寄付等により製作した『衣裳』のご披露行事も行われることになりました。

どうぞご期待ご観覧のほどご案内申し上げます。

「わたしや野上の諏訪様近所 諏訪様かづけて来ておくれ」 (正調諏訪太鼓を守る会)



# 料理実習をとり入れた 楽しい家庭教育学級

家庭教育学級は「乳幼児をもつ両親(保育所・大野・熊町幼稚園)を対象に」開設して三回を迎えた。家庭教育学級を推進するにあたり、本町の実態に即した生涯の各時期における要求課題に対応し「だれでも」「どこでも」「いつからでも」学べる態勢を整え展開している。

学習課題の設定についても、前年度の各学級生の貴重な反省資料等を参考に要求課題と必要課題を組み入れ乳幼児の心身の発達段階を考慮しながら計画し実施している。

学習課題は、弾力性をもち、学級生との話し合いで当初の計画に



毎月二十六日を家庭教育学級日とし、開始は九時三十分とする。

九月からは学級日の日程内容等について方部連絡員が責任をもって地区内の学級生に知らせるようにしました。

七分の家庭教育学級は「幼児の食事とおやつ作り」を実習し、学級生が四十数名も出席、調理室も狭い位の盛況だった。

今までは「集める」ことに努めてきたが学級生一人一人が積極的に「集まる」ようになり、都合により出席できなかった学級生には資料を届けたり、今日の学習事項を隣近所の方々にお話するなど、意欲的である。

「いつからでも学べる家庭教育学級です。乳幼児をもつ両親の皆さん、楽しい家庭教育学級で学びましょう。(学級担当者)

## 部落公民館長 連絡協議会が発足

七月十六日午後一時三十分より町公民館において常盤助役、志賀館長、部落館長が出席し、部落公民館長連絡協議会が設立された。

はじめに設立の趣旨や経過を報告、規約や事業計画等を審議可決した。その後役員を選任、今後の部落館の活動に期待しながら研修会に入り、相双教育事務所の中野由孝先生を

- |       |       |
|-------|-------|
| 幹事    | 志賀敏男  |
| 副幹事   | 岡田為之  |
| 会長    | 松本幸一  |
| 副会長   | 坂上 肇  |
| 監事    | 佐久間正之 |
| 理事    | 井戸川一  |
| 馬淵辰衛  | 池田光雄  |
| 坂本東洋男 | 浅野輝雄  |
| 岡田為之  | 高山広衛  |

## 行事お知らせ

- △青年学級▽
  - 期日 八月九日(十日)
  - 場所 いわき市 四倉
  - 内容 野外活動と仲間づくり
- △家庭教育学級▽
  - 第四回講座
  - 期日 八月七日 九時出発
  - 場所 四倉町 子どもの村
  - 内容 親子野外活動
  - 第五回講座
  - 期日 八月二十六日九時三十分
  - 場所 大熊町公民館
  - 内容 青少年の非行と家庭
  - 講師 富岡警察署防犯係長
  - 第六回講座(親子読書活動と合同学習)
  - 期日 九月二十六日九時三十分
  - 場所 大熊町公民館
  - 内容 豊かな心の育て方
  - 講師 県立図書館 浦井司書
- △婦人学級▽
  - 期日 八月三十日 九時三十分
  - 場所 大熊町公民館
  - 内容 若さと健康
  - 講師 雪印乳業 遠藤先生
- △親と子の読書活動▽
  - 期日 八月十一日 一時三十分
  - 場所 大熊町公民館
  - 内容 親子映画会(話し合い)
- △郡町村対抗野球大会▽
  - 期日 八月三日
  - 場所 大熊町野球場
- △剣道少年団野外研修会▽
  - 期日 八月三日
  - 場所 水石山
- △県総合体育大会(スポーツ少年団)▽
  - ソフトボール大会(大小・熊小)
  - 期日 八月九日(十日)
  - 場所 喜多方市(喜商高)
  - ミニバスケット(大小)
  - 期日 八月九日(十日)
  - 場所 いわき市
- △県民スポーツ大会(八月二十四日)▽
  - 軟式庭球
  - 場所 原町市夜の森公園
  - 卓球
  - 場所 原町市小川町体育館
  - 壮年ソフトボール
  - 場所 飯館村(村民グラウンド)
  - (下野上チーム参加)
  - 家庭バレーボール
  - 場所 飯館村(相農体育館)
  - (小入野チーム参加)
  - バトミントン
  - 場所 小高町(小高中屋体)
- △町民体育祭▽
  - 期日 九月七日(第一日曜日)
  - 場所 大熊中学校 校庭
- △双葉郡総合体育大会▽
  - 期日 九月二十三日
  - 場所 双葉町
- △文化展▽
  - 期日 十一月一日から
  - 十一月三日まで
  - 場所 大熊町公民館
  - 内容 書道、絵画、生花、盆栽、手芸等、幼小中学生、一般の作品を展示予定です。



### 高令者研修に参加して

県教育委員会の主催する高令者教育指導者研修会が、去る七月十一日小高町公民館において開催された。相双地区から約百名が参加し、その一員に大熊町高令者大学の橋本鉄治郎委員長と私が出席しました。はじめに前小高町社会教育指導員の坂下誠先生より『社会の変化とこれからの高令者の生き方』と題して講話があり早速研修会に入りました。

参加された各地区代表の皆さんは大変元気があり立派な体格で七十才以上とは思えない方々ばかりでした。社会の荒波をのりこえてこられた経験豊かな方々だけに意見発表もすばらしいものがあり、参加して大変勉強になりました。

また、七月十五日は第九回福島県福祉大会に参加し、各界の方々のお話や講演を聞き、社会活動や学習活動に意欲がわいてきました。特に仲間とのふれ合いの中から精神的、情緒的安定を図り、若々

を感じた点を申し述べてみたいと思います。

わたくしたち老人は、益々高令化社会へ進行する中で、何もしい、何も考えないでいると老化が早まると思います。そこで私には何のかわりもないと言う自己本位の考えをすて、相互扶助の社会しくみを理解し、地域の一員として連帯感に富んだ活動や生活をしなければならぬと言うことをつくづく感じました。

また、七月十五日は第九回福島県福祉大会に参加し、各界の方々のお話や講演を聞き、社会活動や学習活動に意欲がわいてきました。特に仲間とのふれ合いの中から精神的、情緒的安定を図り、若々

### バレーは小入野ソフトは下野上が優勝

町民体育祭採点種目のひとつとして毎年実施している家庭バレーボール並びに壮年ソフトボール大会は、今年度から七月の第一日曜日に実施することになり、去る七月六日大熊中学校において開催された。当日は梅雨空の悪天候ではあったが、選手始め応援もたくさんつめかけ、にぎやかな大会となった。なお成績は次の通りです。

- 優勝 小入野
- 準優勝 熊川
- 三位 熊

- 四位 下野上
- 五位 町
- 壮年ソフトボール
- 優勝 下野上
- 準優勝 夫沢
- 三位 野上
- 三位 駅前
- 四位 熊
- 四位 大川原
- 四位 町
- 四位 小入野



しい心身を保つ必要があるということ。町内の高令者の皆様、今後とも健康に留意して長生きして楽しい活動を進めようではありませんか。

下野上四区老人クラブ会長 田母神惣三郎

### 青少年団

#### 全国の仲間と交流

全国の少年団が一堂に会し、スポーツ活動を中心とした共同生活を通しながら、自己教養を高める各種スポーツ少年団大会が夏休みを利用して開催される。

当町からは、暁スポーツ少年団に加入している中学生、高校生八名が参加し、リーダーとしての学習や全国の仲間と友情を深めてきます。なお、各大会の参加者は次の通りです。

- 参加者 田中美和(熊町)
- 伊藤洋美(小入野)
- 東北ブロック少年団大会
- 期日 七月二十六日、二十八日
- 場所 福島県少年自然の家(郡山)
- 参加者 佐藤多美子(熊)
- 中原 詠子(熊)
- 川木 愛子(小入野)
- 木村 恵(熊川)
- 中央リーグスクール
- 期日 八月十四、十七日
- 場所 秋田県田沢湖
- 参加者 加茂健二(熊)
- 門馬浩之(野上)

安全は家庭の中からしつけから

## 大熊町町民憲章

#### <前文>

私たちは、美しいあぶくまの山なみと青い海、清らかなくま川の流れにはぐくまれた大熊町の町民です。

私たちは、先民の遺業を受けついで、心豊かな生きがいのある住みよい町をつくるため、ここに町民憲章を定めます。

#### <本文>

- 健康で楽しく働ける、豊かなまちをつくりましょう。
- みんなで助けあい、明るいまちをつくりましょう。
- きまりを守り、平和な住みよいまちをつくりましょう。
- 自然を愛し、きれいなまちをつくりましょう。
- 進んで学び、香り高い文化のまちをつくりましょう。



# 文芸

## 詩



### 杉の林

大小五年 鶴岡 恵子

たくさんの杉の木が  
子どもたちをよんでいる  
「はやくおいで、遊びにおいで」  
子どもたちは  
春をさがして歩いていった  
シーンと  
しずまりかえった杉の林が  
子どもたちのかん声でにぎわった  
子どもたちは帰っていった。  
杉の林は また  
シーンと  
「またおいで さびしいよ。」  
杉の木がさげんだ  
子どもたちは  
手に手に花をもっていた  
「また こんどくるよ」  
子どもたちは  
春を見つけて帰っていった。

## 短歌

高桑 重乃

庭の辺の桜を見つづつ甘酒を  
亡き母思ひてしばし飲みみる

木下 千代子

みどり濃き新宿御苑をみおろせる  
五十六階の朝日ギャラリ

松本 ミヨ子

病む姪のうごかぬ腕をさすりつつ  
まどろむ頬に涙ひとすじ

中山 貞夫

霧雨の山にしだるる紫の  
藤重たげに朝の明けゆく

鎌田 清衛

梨接ぐに接穂くわえつ粗皮削ぎの  
ナイフ春陽に時折閃る

## 俳句

佐久間 信子

梨授粉終りて夜の海鳴りぞ  
沢田美起の星を加へて五月の夜

結城 千代

遠山に残る雪あり昼の月  
老ふ如くに春の髪染めて

河西 かつ

陽炎を前後に牛の眠りをり  
筍の越境顔を見せにけり

飯村 洋子

生垣を刈りて光りぬ柿若葉  
雛の菓子看護婦詰所やわらぎぬ

武内 よね子

年を経し桜並木の花かすみ  
還歴の身を吹きめぐる春の風

鎌田 光子

娘なく老雛飾る部屋の隅

飯田 良江

留守に子が下校せむかと気づかひて  
て茶の間にメモおき会合に出づ

川木 裕子

裏畑に菜を摘みおれば三声ほど  
朝もやこめて驚のなく

小林 かおる

満開の山つつじ生けて家庭訪問の  
師を待つ我は心落ち着かず

江又 千流

花の開くを待ちわびる朝  
腕豆のむらさき淡き蝶形の

江又 千流

ふり向けば恋しき友の影ながく  
思い出つづく夕雲の空

菅野 キヨ

牡丹雪街行く親子寄り添へて  
畦の芹夕餉の膳に香りけり

川木 裕子

たがり落つ雪解の水や滝太し  
雪解に瀬々の弾みや旅の宿

猪井 静枝

春燈し風雨の山の観音寺  
潮風をさけて摘りて浜防風

中山 安子

わが丈をしのぎて孫の卒業す  
頬ずりわが子のやわらかに桜満つ

渡辺 多磨子

川音の歩みたるとこ渡藤の花  
年毎に色濃き牡丹父逝きて

渡辺 政美

ヒゲナンにのみまつれる風ならん  
春灯下粥のやしなひつづきをり



## 金のにわとり

むかし

長者が原に長者が住んでいまし  
た。近郷近在の金持ちで、十三

のくらは金や米や宝物がいっ  
ぱい入っていました。しかし

と大事な宝物がありました。

それはまばゆいばかり光りか  
がやく一對の金のにわとりでし

た。どろぼうに盗まれては大へ  
んと家族の人の外は誰も知りま

せんでした。

六十才になった長者は親戚、  
近所の人たちが集って還暦のお

祝いをしてくれました。長者は  
大へん喜んでお酒をたくさん飲

みました。

ところがその夜誰も知らない  
うちに長者は死んでしまいました

た。さあ大変上を下への大騒ぎ。  
そのどさくさまぎれにどろぼう

が入って金のにわとりを盗んで  
しまいました。ところが後から

人々の騒ぐ声に驚いたどろぼう  
はびっくりして近くに井戸の中

に捨ててしまいました。

そして何食わぬ顔で歩いてい  
ました。人々は何も言わないで

ついて来ました。

ところがそのどろぼうは再び  
長者が原に見えませんでした。

ところがその後長者が原にふ  
しきなことがおこりました。家

々でなくにわとりの声のあいま

に、どこからかコケッコーとき  
れいな声がかすかに聞えてくるの  
です。

百姓はあそこか、ここかと探し  
た結果、どうも井戸の中らしいの

で井戸さらいをしました。一羽の  
金のにわとりがでて来ました。家

族は喜んでダンスの中にかくして  
誰にも話しませんでした。

ある日隣村の士が百姓を訪れま  
した。

「俺はこんな夢をみた。金のに  
わとりが俺の枕元に現われて、世

の中に私を出して下さい。このま  
まだと災難があるはずだと。居

なけりやいよ。いたら大へん  
だぞ。そんな不吉なにわとりは早

く手放すことだ。ただとはいわな  
い、十両出すぞ」といいました。

百姓は考えた。悪い士にねらわ  
れたら逃げようはない。災難の来

ないうち手放そうと。

士は大へん喜びました。

江戸の金持ちが来て三百両で買  
って来ました。士は大金持ちに

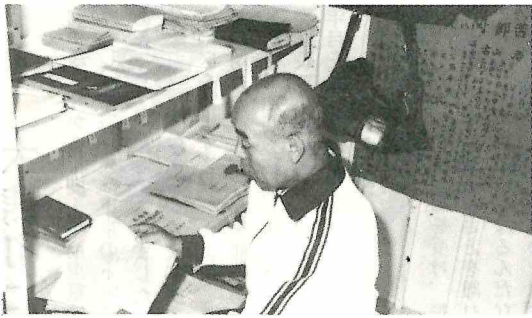
なりました。

メスのにわとりはどこかの井戸  
の中にまだ沈んでいるはずだと村

の人々は今でも考えています。







### 無言の教え

三日ばかり前、私は急に歯痛になり、医者に出かけた。待合室には七・八人の患者さんがいた。私は自分の靴だけ揃えてあがり、受け付けを済ませると間もなく、年長いたおばあちゃんが入ってきた。八十才を越えたと思われる白髪の腰のひどく曲がったおばあちゃんだった。先にいた人たちに一礼をしたかと思うと、玄關に乱雑にぬきすててあった靴やサンダルを、次々にきちんと並べはじめた。ほとんどの履物を揃えてから、自分

のぞうりを揃えて上がってこられた。そして患者さんの前を礼をして奥の方に腰かけられた。私はおばあちゃんの行為をみて思った。なぜなら、私は自分の靴しか揃えなかった。乱雑だなあと感じたことは感じたのだが……。

次に来た子どもたちも、これを見てきちんと揃えて上がって来た。無言でみんなに教えているように思われた。

私はじつとこのおばあちゃんをみていたら、おばあちゃんと私の

### SL資料室を設置

#### 国鉄をやめた鈴木さん

国鉄に永年勤務し、今年四月に退職した鈴木保蔵さん(野上三区)は国鉄勤務の思い出を残そうと自宅前に資料室をつくり、各種資料を展示しています。鈴木さんは原町機関区を定年退職したばかりですが、三十九年間にわたって常磐線の列車を動かしてきた名機関士であり、資料室をつくるのが国鉄勤務時代からの夢だったそうです。ようやくこの程オープンし、展示された資料室を見ながら懐かしい思い出を語ってくれます。

「自分にとっては思い出の品だから。そして、じいちゃんが、先祖がどんな仕事をしてきたのか、子どもや孫にわかっていただために……。」と

なお、この資料室には、技術研修誌や昔のSL機関士時代の制服、無事故・無傷害十万里達成の表彰状、乗務日誌等百二十点余りが展示されており貴重なものばかりです。資料をご覧になりたい方はいつでも開放することです。

は、きっとあたたかい思いやりのある家庭だろうと思った。このおばあちゃんを見て育った子どもたち、そのお子さんたちもまた、きつとりっぱな子どもさんになることだろう。

そして、このおばあちゃんに出逢ったことが、私には何か、とても尊いものをもたらすよう、うれしくてならなかった。

大川原 一主婦

### 職業を通して思う

車の窓から  
「ゴミを捨てないで」  
最近、町内の幹線道は朝夕車のラッシュが続きます。これとあわせ車の窓から空カンやゴミを捨てる心ない者が増えております。野上老人クラブでは空カン拾いをしましたがあまりにも大量に驚きました。気をつけたいものです。  
沿線住民

沿線住民

プロの運転手としてはや十年が過ぎてしまいました。これを職業とするには、多少なりとも抵抗がありました。一に運転をしてみたいと言っただけで職業として選んだ次第です。皆様ご存知の通り自動車とは、一個の大きな馬力疾走する物体であり危険物と申されています。このような破壊力を持った自動車を、いかに安全に運転し社会に貢献するか、また公共性あるサービス業としての社会的責任への自覚等、毎日が緊張の連続です。最近では全国的な所において交通事故の続出、交通戦争とまでいわれています。現状のきびしさの中を、より速く、そして安全に目的地まで到着、お客様に安心して乗車して頂く職業についていたことは誇りに思っています。ふり返ってみますと度々悲惨な交通事故現場に遭遇して参りました。余りにも無惨なその姿に思わず目を覆いたくなることもあり事故の恐ろしさや人命の尊さを改めて痛感致します。又ある時の女性客は目的地もなく乗車、行く先々を変更、不審な点をたざしたところ、ある病院の入院患者であり病院に

は帰りたくないと言ひ張るのを私なりに説得、無事病院に連れ戻したこともありました。万がいち気づかずにいたならばあの女性は一命を預かるタクシー業の社員としての責任が改めて身にしみま

す。勤務の都合で退社するのが夜半のため、二人の子どもの寝顔を見るのが唯一のたのしみです。その子ども達に大きくなったらと聞いてみると二人そろって得意気に「タクシーの運転手」とはね返ってくる。子ども心にも父親の職業に対して誇りを持っているのかと思うと、十年前に単純に選んだ職業だったのにと反省されてなりません。今後においては、「初心不可忘」という言葉をモットーにプロ意識と社会的責任の重大さを認識して誇りを持ってサービスと安全運転に全力を投入したいと思っています。  
タクシー運転手 田熊 清



# 大熊町に住んで

私達は今から丁度十年前東京で結婚し、新婚時代は東京の下町にあるアパートに住んでいました。建築家と言う職業がら東京都内の各地区を移動する状態にあり、長女が幼児のころより大熊に引越すまで四回も移動しました。原発建設で当地に赴任し、早くも八年目となり私達の生活に対する考え方も大きく変わりました。東京で

は考えられなかったマイホーム生活。また小さいながらも一戸建のわが家で時おりの花鳥風月をたのしむ生活は、田舎ならではの生活で、毎日毎日が大変充実した感があります。私が従事している原発の仕事は、まことにハードな毎日ですけれど、仕事を離れば息抜きが充分でき、ストレスがたまりません。環境にあり、子ども達も毎日

元気に近所の仲間と遊んでいます。東京にいる友達に田舎での生活を話しますと「うらやましさがられます。大熊町が美しい健康的な田園都市として発展するよう願う次第です。」  
新町 会社員

## ふれあいから

先日のある日、妻と小学生の子どもが「お母さんのおなかか張って来たから、赤ちゃんが生まれるのかな？ そうしたらどうする？」

「お母さん、ぼく赤ちゃんいらないうよ」「どうして？」「だってばくの食べ物少なくなるもの」  
こんな話をして二人で大笑いしているのを聞き、私も小さい頃の記憶にこれに似たことを言ったのを思い出した。私も母に向かつて「母ちゃん、赤ん坊は産むなよ」と言ったのを覚えている。当時私には、私を頭に三人の妹がいて、食糧事情も悪く食うや食わずの生活だし、私は大きいので子守りは

館報への投稿依頼を受け、振り返ってみて、ふるさとを離れもうすぐ半世紀にもなるんだなあと感慨深いものがあります。この間三桁を数える程は田舎へ帰ったことでしょうか。ある時は喜びに胸ふくらませ、またある時は苦しさに堪えしみに耽りながら、でもいつも変らぬは阿武隈の山々であり、ここから流れ来る清き流れと路傍の可憐な花と澄み切った青空である。私は友人に観光旅行に誘われることがありますが、「そんな時間があったら田舎へ帰る」と答える。

田園風景を眺めながら川面に糸を垂れ、鶯の鳴き声をきいたり雲雀が天高く舞い上がるのみにとれて浮きの動きを忘れ、いつしか想いはふるさとへ走る。遠くにかすむ山々を眺めてみると、あの山には祖母に連れられていった裏山と同じように藪が顔を出しているだろう、秋には栗も拾えるだろうと想いは果てしなく続く。田植えの季節には馬と一緒にたんぼの中を走り回り、夏休みには田の草取りにも動員された。四十度を越す炎天下でたんぼ中をはい回る作業は重労働だった。木枯吹く頃刈り取った稲を馬の背に乗せて運ぶのは私の仕事だった。父に連れられて雪深き奥山へ薪を探りにも行った。しかしこんな楽しみもあつた。それは田植作業が一段落した頃に柏

餅を作り隣所に配る。お返しにツケ木、マッチを下さる家が多かつたが、向かいの渡部のオバさんと野上の木幡のオバさんは穴あきの五銭を駄賃にくれた。野上までは相当の道のりだが風呂敷に包んだ柏餅を背負って歩いて行くことに何等の苦痛も感じなかった。今ではこの様な風景は全くみられな。耕運機のエンジンの響きが山々

「お母さん、ぼく赤ちゃんいらないうよ」「どうして？」「だってばくの食べ物少なくなるもの」  
こんな話をして二人で大笑いしているのを聞き、私も小さい頃の記憶にこれに似たことを言ったのを思い出した。私も母に向かつて「母ちゃん、赤ん坊は産むなよ」と言ったのを覚えている。当時私には、私を頭に三人の妹がいて、食糧事情も悪く食うや食わずの生活だし、私は大きいので子守りは

させられるし、弟は欲しかったが妹はもういらないうという気持ちでいたことをあの時の言葉と共に忘れられない。私が父親になって、子どもが母親とふざけ合っていることとはいえ、父と子が同じようなことを言ったのが何と偶然のことかと考えさせられた。いつの世も子どもの目は自分を真ん中において、直観的、打算的に物を見るものであることを知らされたが、何か割切れない気持ちもあり、何かの機会に話題とし、父子で話し合ってみたいなと思う。わが家の小さなふれあいの一コマでした。  
松野 和人



## ふるさとを離れて

石田 二郎

節には馬と一緒にたんぼの中を走り回り、夏休みには田の草取りにも動員された。四十度を越す炎天下でたんぼ中をはい回る作業は重労働だった。木枯吹く頃刈り取った稲を馬の背に乗せて運ぶのは私の仕事だった。父に連れられて雪深き奥山へ薪を探りにも行った。しかしこんな楽しみもあつた。それは田植作業が一段落した頃に柏

餅を作り隣所に配る。お返しにツケ木、マッチを下さる家が多かつたが、向かいの渡部のオバさんと野上の木幡のオバさんは穴あきの五銭を駄賃にくれた。野上までは相当の道のりだが風呂敷に包んだ柏餅を背負って歩いて行くことに何等の苦痛も感じなかった。今ではこの様な風景は全くみられな。耕運機のエンジンの響きが山々

「お母さん、ぼく赤ちゃんいらないうよ」「どうして？」「だってばくの食べ物少なくなるもの」  
こんな話をして二人で大笑いしているのを聞き、私も小さい頃の記憶にこれに似たことを言ったのを思い出した。私も母に向かつて「母ちゃん、赤ん坊は産むなよ」と言ったのを覚えている。当時私には、私を頭に三人の妹がいて、食糧事情も悪く食うや食わずの生活だし、私は大きいので子守りは

させられるし、弟は欲しかったが妹はもういらないうという気持ちでいたことをあの時の言葉と共に忘れられない。私が父親になって、子どもが母親とふざけ合っていることとはいえ、父と子が同じようなことを言ったのが何と偶然のことかと考えさせられた。いつの世も子どもの目は自分を真ん中において、直観的、打算的に物を見るものであることを知らされたが、何か割切れない気持ちもあり、何かの機会に話題とし、父子で話し合ってみたいなと思う。わが家の小さなふれあいの一コマでした。  
松野 和人

## 編集後記

- ◎今年も盛夏を迎え海や山のこいしい季節となりました。とくに子ども達にとっては待ちに待った夏休みです。海水浴やキャンプなど盛りたくさんの行事が計画されているようです。
- ◎休みは子ども達にとって学校から、勉強からの開放感を満喫し、野外での生活が大変多くなります。交通事故や水難事故にあわないようお祈りします。
- ◎館報の原稿をお寄せ下さい。要領は四百字詰原稿用紙一枚程度です。
- ◎主張、産業、教養、文芸に関するもの何でも結構です。
- ◎政治的な色彩を帯びたり、個人非難に属するものでないこと。

石田さんは大川原うまれで、現在は東京で暮らしており、町民体育祭に使用している聖火を寄贈してくれた方です。